

2017年度商学部専門科目「経営学」

第4回 企業とは何か、誰のものか

0 本日の目標

今回から、本格的に、経営学の授業とグループディスカッションを行う。今回は、経営学の主要な研究対象でもある企業について、企業は何か、企業は誰のものかを検討して、ゴーイングコンサーンとして企業はどのようにあるべきかを考える。

1 今回のキーワード

『基本経営学用語辞典』より

コーポレートガバナンス

企業統治とも訳され、企業活動が社会的に受け入れられ正当性をもっているかの企業に対する社会的な制御概念。

株式会社

資本金が株式という均等な形のものに分割され、出資者すなわち株主は株式の引受価値を限度として会社への出資義務を負う会社。

ステークホルダー(利害関係者)

企業の活動あるいは目標などはさまざまな人や集団の影響のもとで実施され、形成されているが、この関係者をステークホルダー(利害関係者)と称する。

エージェンシー論

プリンシパル(株主)がエージェント(経営者)に対してどんな誘因システムを与えたら希望通り行動をしてくれるか、そのためのコスト、望ましい委託契約はどのようなものなのかなどの問題として提起される。

経営者支配

株式会社で株式所有の高度の分散化により大株主がいなくなり、他方、経営者職能の専門家によって、所有と経営の分離が進むと、株主総会で取締役等経営者の選任にあたって、実務上経営者が自らで経営者を選任するようになり、企業経営の支配権が経営者に移るようになる。このことを経営者支配という。

2 企業とは何か、誰のものか

テキストより

コーポレートガバナンス問題を取り上げることで、

(1)『企業は誰のものか』『企業は誰の利害に尽くすべきか』という、企業の基本的なあり方(2頁)を問うことができる。

社会的な存在としての企業

前回の象印マホービン；コーポレートガバナンス◎…従業員、顧客、取引先など

最近も話題の東芝；コーポレートガバナンス×

…不正会計問題～利益の水増しで、配当としての社外流出、事業閉鎖による雇用減少など→資料1
資料1

今回、露見した東芝の不正会計問題は、同社がわが国企業の中ではいち早く委員会等設置会社に移行し「ガバナンスの優れた会社」という評価を受けていただけに、その衝撃は大きかった。時あたかも、スチュワードシップ・コード、ガバナンス・コードが制定され、「企業統治元年」と呼ばれていた時期だけに、株式会社改革の動きに冷や水を浴びせる結果になった。(佐賀, 2015, 126)

スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの設定

…(2)投資家と企業による企業価値向上のための「車の両輪」(資料2)

資料2

6月に入り、3月期決算企業の株主総会が始まる。今年には企業統治や成長戦略をめぐる企業と株主の対話が焦点になりそうだ。2015年の総会シーズンに欠かせないキーワードを解説する。

(3面参照)

日本の「稼ぐ力」を取り戻す。14年6月に安倍晋三政権が公表した成長戦略の具体策である「日本再興戦略」は、冒頭でこう宣言した。道筋はこうだ。まずは国際的に見劣りする自己資本利益率(ROE)で示される企業の資本効率

わかる 総会 ① アベノミクスと企業統治

<p>企業統治は不祥事対応から成長戦略に</p> <p>2014年</p> <p>スチュワードシップ・コード (機関投資家の行動指針)</p> <p>会社法の改正 (社外取締役の導入)</p> <p>JPX日経インデックス 400の算定開始</p> <p>「伊藤レポート」の公表 (ROE重視への転換)</p>	<p>2015年</p> <p>企業統治指針 (企業の行動指針)</p> <p>2つの指針を 「車の両輪」に 企業価値向上へ 対話を促す</p>
---	--

の引き上げが喫緊の課題だ。投資家が企業の背中を押し、投資の成果を享受できる仕組みを作る。全体の成長力が高まる。

それが成功すれば企業、投資家、消費者の間でお金がかまぐ循環し、経済全体の成長力が高まる。

そのための最大の力がある。企業統治の整備だ。経営者の「内輪の論理」で進められがちだった日本企業の経営に社外取締役など第三者の目を取り入れる。株主のチェック機能を生かしながら企業の成長力を

を高める。従来日本の企業統治は不祥事対応など「守り」に焦点が当たりがちだった。アベノミクスは今回、企業統治を「攻め」にしておとしている。具体策も出そろった。中でも重要なのは、企業と投資家がそれぞれ取り組むべき2つの指針だ。まず14年2月に策定されたのが機関投資家向けの行動指針(スチュワードシップ・コード)だ。お金の出し手である投資家が企業との対話を通じて中長期的な成長を促すのが目的だ。総会での議

決権行使がそのための有力な手段となる。一方、上場企業向けに6月から適用が始まったのが東京証券取引所の企業統治指針(コーポレートガバナンス・コード)だ。企業は自らがふさわしいと考える企業統治の形を投資家に説明する義務を負うようになる。2つの指針は企業価値を高めるという目標に向けて、投資家と企業の双方が対話を通じて取り組む「車の両輪」。指針に沿って企業と投資家は課題にどう向き合うのか。今年の総会で問われる。

投資家・企業に対話課す

出所)『日本経済新聞』2015年6月4日朝刊。

外国人株主の増加(テキスト12頁, 図表1-3)…「モノ言う株主」の増加

東芝の株式格付けの引下げへ

格付投資情報センター…投資適格等級の「トリプルBマイナス」から投機的等級の「ダブルB」に

2段階引き下げ, 社債発行もできず銀行からの融資のみ

⇒そもそも, 企業(=株式会社)は, (3)株主のものではないのか, なぜ, 社会との関係を考えなくてはならないのか

3 株式会社とは何か

さまざまな会社観（テキスト 3 頁，図表 1-1）

会社観の違いによる会社の所有者，目的の違い

株式会社の歴史的な発展

1602 年設立のオランダ東インド会社が最初…有限責任制，資本の証券化

イギリス東インド会社は当初は 1 回の航海限りのもの

現在の株式会社…全出資者の有限責任制，会社法人性，会社機関の存在，出資と経営の分離，株式の自由譲渡性

会社法人の所有関係…「二重の所有関係」？＝「2 層構造」

…自然人の株主⇒法人⇒会社財産(テキスト 5 頁，図表 1-2)

実際の運営…会社機関の設置→ (4)出資と経営の分離 …ゴーイングコンサーンへ

株式会社の大規模化，株式の分散化⇔専門経営者の台頭

→(5)株主に対する経営者の地位の相対的上昇，経営者支配論へ

経営者の機会主義的行為とコーポレートガバナンス（企業統治）問題（テキスト 9 頁）

アクティビストとしての機関投資家の覚醒

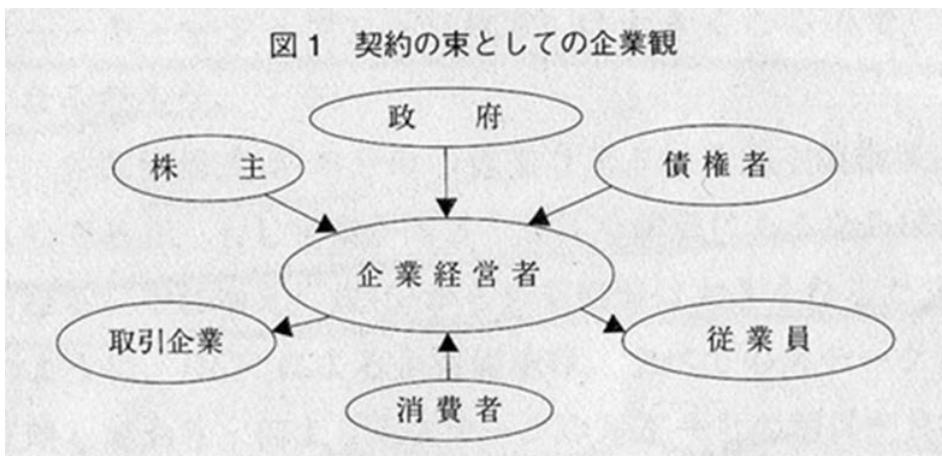
株主と経営者の関係を議論するエージェンシー理論の登場

4 エージェンシー理論からステークホルダーアプローチへ

エージェンシー理論

プリンシパルとエージェント(テキスト 15 頁)

現実の企業のあり方⇒株主と経営者だけではなく，(6)多元的な企業という捉え方（資料 3，DVD）
資料 3



（出所）菊澤（2010），153 頁。

ステークホルダーとの関係が良好だと企業価値は向上

いかにして，経営者に企業価値を高めるようにステークホルダーの利益を高めさせるのか
ステークホルダーガバナンスのシステムへ＝テキストではステークホルダーアプローチへ
経営者の相対的自律性の確保の必要

5 改めて企業について

巨大な株式会社…社会的諸問題との密接な結びつき，強大な影響力の保持（テキスト 23 頁）

⇒(7)求められる社会との共進化

→私心のない中立的な立場でコーディネーションの行える経営者への期待(テキスト 25 頁)
そのメカニズムの解明としてのコーポレートガバナンス問題

6 企画書づくりについて

狙い

具体的に「経営学」を考えていただくため、企業人からの課題に対する解決へ
いくつかの感想

取り組み方

分析シート：企画書作成にあたって注目すべき対象の分析

今回と次回での取り組み

前回の宿題として作成してきた分析シートをグループでの共有へ

改めてのアイデア出し

アイデアを出している間は議論しない

出尽くしたら、出てきたアイデアをみて議論する（KJ法でまとめるなど）

前回の講演の感想

- （1 回生男性）マンネリ化をなくすために集客力を落とさないこと、また活性化を促すこと。そして 1 つの商品から他の商品に技術を応用していくことは商品だけでなく企業も発展させることを知り、新しいものをゼロから作り出す創造力だけでなく、今存在するものの何が足りないのか、どうすればさらにより良い商品になるかという観察力も必要だと思いました。
- （1 回生女性）「B to C」企業、「B to B」企業という名前は初めて聞きました。社会には、私の知らない業態の企業がたくさんあるのだと思うと、名前が有名だからというだけで就職活動の時に選択することはもったいないと思いました。また、「商品は良いものを作らなければならない」「これからはまほうびんもデザインの時代だ」「先生、これからも、先生の考え方を通してください。我々は何としても製品化に努めます」といった言葉がすごく聞いていて頭に残りました。自分の信念を貫いて目指すものを企業全体で追い求めるということは大変なことも多いと思うけれど、楽しそうでもあると感じました。普段何気なく使っているものには、1 つ 1 つ、作った人々の思いや歴史が積み重なって、今、自分の手元にあるということを改めて意識してみると、これからも技術が進み、さらにももの数が増えていく世界で、モノに対する思いや、モノの使い方が変わっていろいろな意味で充実した生活に近づきそうです。
- （1 回生女性）自分の息子に口癖のように言っていたといわれるほど、今西さんのことを信頼しているという話から、仕事ができるかどうかだけじゃなく、信頼関係も重要なんだなと思いました。

参考文献

佐賀卓雄（2015）「東芝の不正会計問題とコーポレート・ガバナンス改革」『証券レビュー』第 55 巻第 10 号, 126-143 頁

百田義治（2013）『経営学を学ぼう』中央経済社。

菊澤研宗（2010）「」鈴木豊『ガバナンスの比較セクター分析—ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局, 147-66 頁。

次回のキーワード

戦略, 多角化, 意思決定, SWOT 分析, PPM